

## 第15回宇宙開発委員会（定例会議）議事次第

1. 日 時            昭和48年7月4日（水）  
                     午後2時～4時
2. 場 所            宇宙開発委員会会議室
3. 議 題            宇宙開発計画の見直しに関する審議に  
                     ついて
4. 資 料  
  
     委15-1    第14回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨  
  
     委15-2    宇宙開発計画の見直しに関する審議について（案）

## 第14回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨

1. 日 時 昭和48年6月13日（水）  
午後2時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題
  - (1) 技術部会報告について
  - (2) 国連宇宙空間平和利用委員会科学技術小委員会第10会期報告について
  - (3) その他
4. 資 料
  - 委14-1 第13回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
  - 委14-2 宇宙開発委員会技術部会報告
  - 委14-3 国連宇宙空間平和利用委員会科学技術小委員会第10会期報告

## 5. 出席者

|         |         |
|---------|---------|
| 宇宙開発委員会 | 山 県 昌 夫 |
| "       | 紺 島 毅   |
| "       | 吉 識 雅 夫 |
| "       | 八 藤 東 禧 |

## 説明者

|               |         |
|---------------|---------|
| 航空宇宙技術研究所長    | 山 内 正 男 |
| 東京大学生産技術研究所教授 | 斎 藤 成 文 |

## 関係省庁職員等

建設省大臣官房技術参事官

海上保安庁総務部長

運輸省大臣官房参事官

文部省大学学術局審議官

通産省重工業局次長

郵政省電波監理局審議官

気象庁総務部長

東京大学宇宙航空研究所

宇宙開発事業団システム計画部

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

宮 崎 明  
(代理：石井)高 野 景  
(代理：樋口)佐 藤 久 衛  
(代理：小林)笠 木 三 郎  
(代理：大坂)北 村 昌 敏  
(代理：宮林)高 田 静 雄  
(代理：岡井)間 孝  
(代理：高谷)

高 瀬 修

高 木 邦 寛

松 元 守 他

## 6. 議事要旨

## (1) 前回議事要旨について

第13回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨が確認された。

## (2) 技術部会報告について

資料委14-2「宇宙開発委員会技術部会報告（昭和47年度1～2月期ロケット打上げ実験の評価について）」について、佐賀亦男（代理：山内正男）技術部会第一分科会長から報告があり、総合意見の表現を一部修正の上、受理された。

(3) 国連宇宙空間平和利用委員会科学技術小委員会第10会期報告について

松元守宇宙企画課長から資料委14-3「国連宇宙空間平和利用委員会科学技術小委員会第10会期報告」に基づいて概略説明が行なわれたのち、斎藤成文東大生産技術研究所教授から概要次のとおり報告があつたのち質疑応答が行なわれた。

イ 参加各国およびオブザーバーから一般活動状況報告が行なわれ、世界の宇宙利用面への関心の増大とそれに伴う国際協力の急速な具体化が示された。

ロ 資源探査衛星WG報告を受けて次のような決定がなされた。

(イ) リモートセンシング活動に関する質問書を各国に送付する。

(ロ) データーの国際的配布センターの検討を行うためのタスクフォースを設立する。

なお、リモートセンシングに関する法的規制について、法律小委員会に検討を要請すべきであるとの意見が出された。

ハ 宇宙応用に関する国連プログラムについては、主として予算枠について討議が行なわれ、総額約87万ドルと決定された。また、教育放送衛星東京パネルの開催とフェローシップの受入れについて、わが国から内容を紹介し、意見の交換が行なわれた。

ニ 将来の課題としては、科学技術小委員会および各種WGの役割りの検討が行なわれた。

ホ 訓令に基づき、資源探査衛星地上局設置に関する各国の動向を調査した。

各国

八藤：~~日本およびイタリア~~の地上局設置に対する米の反応は異なるものか。

斎藤：直接受信したいというのであればwelcomeであるとしている。

イタリアの問合わせに対してencourageしないと回答しているのは米国が責任を負うものではないということであろう。

八藤：カナダのいうインターナショナル・コストシェアリング・アレンジメントというのは、衛星に関することか、それとも地上局に関することか。

斎藤：衛星に関することである。

八藤：カナダ案に対する米の反応はどうであつたか。

斎藤：事前に米国の了解をとつたものであるとのことであつた。

(4) 網島数委員帰朝報告

網島数委員から、第30回航空宇宙ショー視察および欧州における宇宙開発の実態調査(昭和48年5月26日～6月7日)について概要次のとおり報告が行なわれた。

イ 仏の宇宙開発は産業科学開発省の外局であるONESを頂点として一元的な体制のもとに行なわれており、軍用部門も~~あるが~~  
~~含めると~~国力に不相応と思われるほど大規模な取り組みをしている。

ロ 仏の技術レベルは、LOX-LH<sub>2</sub>ロケット、TWT、慣性誘導、ラジオメーター等相当高いようであり、わが国との協力にも積極的である。わが国としては専門技術者による討論等を行ない、仏との協力についても検討する必要があると考える。

ハ GARP計画は順調に進捗しており、ソ連の参加は確定的で、中国も強い関心を持つているとのことであつた。

## 宇宙開発計画の見直しに関する審議について

昭和48年7月4日

宇宙開発委員会

決 定

宇宙開発委員会は、昭和48年4月4日付「宇宙開発計画の見直しについて」に基づき、昭和47年度に策定した宇宙開発計画（以下「計画」という。）に関する研究開発の進捗状況および関係各機関の要望事項について調査してきたが、今後は下記により審議を行ない、計画の変更の必要性を明らかにし、必要に応じ計画に修正を加えることとする。

## 記

## 1. 審議事項

主として次の諸点について検討し、必要に応じ計画の修正案を作成する。

- (1) 静止気象衛星の打上げ方法
- (2) 実験用の中容量通信衛星および実験用の中型放送衛星の開発ならびにこれらの人工衛星の打上げ方法
- (3) 人工衛星および人工衛星打上げ用ロケットに関する長期構想

## 2. 審議方法

- (1) 1の審議は、計画部会および技術部会において、それぞれの所掌に応じて行なう。
- (2) 1の審議は、昭和48年8月下旬に終わることを目途とする。